

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 27 年 2 月

○ 概要

(1) 平成 27 年 2 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,809 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）2.6%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,005 円（伸び率 1.9%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,429 億円（伸び率 1.8%）、薬剤料が 4,371 億円（伸び率 2.9%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 610 億円（伸び率 18.6%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん1枚当たり 薬剤料	処方せん1枚当たり 薬剤料種類数	1種類当たり 投薬日数	1種類1日当たり 薬剤料
実数	5,555 円	2.88 種類	22.0 日	88 円
伸び率（%）	+1.7	▲1.4	+4.3	▲1.1

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 3,584 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）87 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 837 億円（伸び幅▲54 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 62 化学療法剤の 40 億円（総額 178 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,584 億円 (87 億円)	21 循環器官用薬 (837 億円)	11 中枢神経系用薬 (580 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (460 億円)
0 歳以上 5 歳未満	40.8 億円 (▲2.0 億円)	44 アレルギー用薬 (16.6 億円)	61 抗生物質製剤 (10.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	99.8 億円 (▲2.3 億円)	44 アレルギー用薬 (49.2 億円)	61 抗生物質製剤 (15.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (12.0 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,272 億円 (1.2 億円)	21 循環器官用薬 (257 億円)	11 中枢神経系用薬 (256 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (169 億円)
65 歳以上 75 歳未満	901 億円 (45 億円)	21 循環器官用薬 (258 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (137 億円)	11 中枢神経系用薬 (101 億円)
75 歳以上	1,271 億円 (45 億円)	21 循環器官用薬 (320 億円)	11 中枢神経系用薬 (210 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (150 億円)

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,005 円（伸び率 1.9%）で、最も高かったのは石川県（11,016 円（伸び率 0.3%））、最も低かったのは佐賀県（7,692 円（伸び率 3.4%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは和歌山県（伸び率 6.4%）、最も低かったのは山梨県（伸び率▲2.3%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】610 億円（伸び率：18.6%、伸び幅 95 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	58.2%	+8.2%
薬剤料ベース	13.9%	+1.8%
後発品調剤率	62.0%	+4.6%
（参考）数量ベース（旧指標）	38.2%	+5.8%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+18.6%	+34.3% (0 歳以上 5 歳未満)	+8.2% (60 歳以上 65 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.9%	15.0% (65 歳以上 70 歳未満)	9.4% (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	541 億円 (+83 億円)	21 循環器官用薬 (153 億円)	23 消化器官用薬 (95 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)
0 歳以上 5 歳未満	4.8 億円 (+1.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	61 抗生物質製剤 (1.3 億円)	44 アレルギー用薬 (1.0 億円)
5 歳以上 15 歳未満	11.9 億円 (+2.8 億円)	44 アレルギー用薬 (5.8 億円)	61 抗生物質製剤 (2.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)
15 歳以上 65 歳未満	191 億円 (+24 億円)	21 循環器官用薬 (47 億円)	44 アレルギー用薬 (34 億円)	23 消化器官用薬 (28 億円)
65 歳以上 75 歳未満	139 億円 (+22 億円)	21 循環器官用薬 (51 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (15 億円)
75 歳以上	195 億円 (+33 億円)	21 循環器官用薬 (56 億円)	23 消化器官用薬 (41 億円)	11 中枢神経系用薬 (26 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	945 円	1,275 円（岩手県）	770 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+17.7%	+28.3%（秋田県）	+7.6%（山梨県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.2%	72.0%（沖縄県）	48.7%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.9%	17.9%（鹿児島県）	11.0%（徳島県）
後発医薬品調剤率	62.0%	74.3%（沖縄県）	53.8%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	38.2%	49.9%（沖縄県）	32.4%（山梨県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 27 年 2 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。